

NRU 国労せんだい

NO. 2479
2006年12月12日
発行責任者 太田 博二
編集責任者 武田 昌仙

学習と交流を基本に

東北協議会が主催

国労東北活動家交流集会

11月12日、13日、岩手県雫石町にて「国労東北3地本活動家交流集会2006」が開催され、40名(仙台16名)が参加し、学習と交流を深め合った。この集会は国労東北協議会が、同総会と合わせて毎年開催しているもの。

学習会一日目

学習は、1日目は海渡雄一弁護士、桜井徹日本大学教授を講師に招き、「目白押し」の悪法とどう闘うか、「JRの検証」と題してそれぞれ講義を受けた。

海渡講師からは教育基

本法改「正」、共謀罪、そして憲法改「正」となぜ次々に提出されてきているのか、またこれらがどういう実態で提出され成立したらどのような影響が及ぶのかが、米軍基地再編や自衛隊の派兵の実態を交え詳しく解説された。

桜井講師からは、JRの20年を現状分析する中で、国鉄改革が果たしてど

うであったのか検証報告がされた。本州3社の好調な収支状況の一方で、長期債務の増加(25・5兆円から28・3兆円)、3島、

佐藤忍さん 運転士復帰へ 約二十年振りに

仙台支社は仙総支部の佐藤忍さんに対し、12月1

日付で小牛田運輸区運転士として発令した。佐藤さんは国鉄の分割・民営化直前の87年、新幹線の運転

士から駅に兼務発令され、クリーニング店・ブチカフェ・営業センター・鳴子駅、その後はお向で利府のパートナー

貨物の困難な経営状況、労働生産性が私鉄よりも上がる中で(国鉄時より東で173%西で180%増)引き起こされている事故の多発などが鋭く指摘された。

また、世界各国の民営化の分析から3島、貨物問題をどう考えるかの提言もなされ、今後の私たちの取り組みの1つの考え方が研究者としての立場で述べられた。

学習会二日目

2日目は東日本本部高野書記長から「東日本本部の取り組みと課題」と題し

会社で車両の清掃の仕事など、今日まで差別的な扱いを受けていた。

今回の異動は本社・本部間における「和解」の成果が支社段階にも及んできたと位置付けられる。

しかし佐藤さんが言うように、「一緒に運転士復帰を闘ってきた門馬さんが復帰していないことなど、手放しでは喜べない

て、中労委を介した和解の経過と意義、今後の取り組みについて報告され、「この時期を逃すことなく国労運動の発展にむけ反転攻勢に転じていこう。11月8

日には横浜で平成採用者の加入があった。組織全体で拡大に向けた取り組みを強化していこう」と提起がされた。続けて行われた職場報告では仙総支部高橋さんから「協力会社員の死亡事故」について、また

郡工支部の橋本さんと本田さんからは「ジャッキの不具合」や使い捨て車両と会社が言っていた「新系列車両問題を通じた安全

のであり、今後も残る課題の克服に向け、勸告書の履行を一つずつ実現させていく運動が求められる。



運転士復帰の喜びを語る佐藤さん

面で見えた課題」について報告がされ、交流会の最後は団結がんばることで学習と交流が締めくくられた。

ひーひー

鳥瞰と虫瞰

先日、小田実氏の講演を聞く機会があった。

氏は、これからは鳥瞰(対して虫瞰(虫の視点)が大切と強調された。鳥瞰には支配者のイメージがあり、対して虫瞰(これは氏の造語だと思う)は、大衆のイメージを持ち、氏が言うとうなずけるものがある。

私が関わる狭い社会にも鳥瞰と虫瞰がある。ものごとをまとめる際によく全体の状況を勘案して、などと云うが、それは鳥瞰であり、虫瞰がないがしろにされるような感じは否めない。

かと言って虫瞰を勘案し過ぎるとまとめることができなくなる。

私としては、虫瞰でほとんど進んで、鳥瞰でまともな上から俯瞰している相手に立ち向かっていく陣立てにするのが良いと思うのだが、氏からは「虫が良過ぎる」と言われそうだ。

(博)

早期解決を目指し奮闘を

第四十七回福島県支部大会より

11月12日、郡山職業訓練センターにおいて、福島県支部大会が開催された。冒頭の挨拶に立った田口委員長は、この間の昇進差別事件及び、出向・配転・バツジ等61事件の和解に触れ、「この和解の意義を真摯に受け止めこれまでの闘いの到達点として総括し、新たな運動の前進に向けて団結していくこと。とりわけJR不採用事件は重要な局面を迎えており、早期解決を目指し、一層の奮闘をお願いしたい」と強く訴えた。

大会討論では13名の代議員から「遠距離通勤の解消」「連夜作業の実態」など切実な訴えの他、これまでの和解に対する不安も率直に出されるなど、活発な討論が展開された。

また大会終了後の懇親会では福島県支部を長年に亘って牽引してきた田口委員長、永山副委員長の苦勞を労った。

2006年度執行体制
執行委員長 小檜山広幸

執行副委員長 大越 喜一
書記長 古川 俊次
書記次長 吉田 浩一
書記次長 歌川 弘
執行委員 佐藤 正彦
執行委員 佐藤 正則
執行委員 菊地 尚一
執行委員 堀切 彰
執行委員 高橋 寛
執行委員 佐藤 誠一
執行委員 山田 明彦
執行委員 瀬戸 利弘
会計監査 難波 和夫

闘争団チャリティーゴルフ大会

仕切り直しも雨に祟られ

7回目を数えた闘争団チャリティーゴルフ大会が、1月27日、西仙台カントリークラブにて開催された。当初9月27日に開催するはずのゴルフ大会であったが、大雨のため日程変更を余儀なくされていたもの。しかし再度の出直しも、雨に祟られるコンディションの中で悪戦苦闘。グリーンがまさかの池状態であったりと、それはそれで楽し



大村実行委員長(右)から優勝カップを授与される渡辺氏

優勝は渡辺純一氏

今大会は、郡山保線区分
優勝 渡辺 純一 (郡保)
準優勝 佐藤 誠勇 (貨宮)
3位 八木沼俊晴 (貨宮)
4位 阿部 貴弘 (郡駅)
5位 大槻 政幸 (仙宮運)
6位 横山 治男 (郡保)
7位 今野 芳信 (仙駅)
8位 高嶋 昭一 (交運共)
9位 柳田 利幸 (仙総)
10位 横山 静夫 (仙総)



思い出になった模様。大会に先立って木村大会実行委員長からは「ストレス解消が目的、ストレスはためないようにならばいい」と挨拶があり、地本大沼書記長は「JR東との和解があり、12月1日には佐藤さんの運転士復帰が実現する。不採用問題では第7次のILO勧告が出されるなど課題が多い中でも前進もみられる。引き続きがんばろう」と開会式をまとめた。

お知らせ

地本教宣部では各支部や分会、班、ユースは勿論、それぞれの地域の取組みや各協会の集会・取組みなどの報告を募集しています。どんな事



でも結構です。地方本部へどんどんお寄せください。

お知らせ

国労会館建設資金返済業務の取り扱い変更について

国労会館建設資金返済業務は1999年度末償還期限以降、(財)国労会館仙台事業部で取り扱いを行ってきたところですが、このたび返済業務が一定の整理を見たこと等から、(財)国労会館仙台事業部で取り扱ってきた業務の残りについて、国労仙台地方本部で引き受けることになりました。

つきましては、今後の国労会館建設資金返済請求については下記に請求をしてください。

住所 〒984-0015
仙台市若林区新寺一丁目4-31
名称 国鉄労働組合
仙台地方本部
担当係 岡崎
連絡先 TEL022-2637460
FAX022-2697435

請求方法
所定の請求書に必要事項を記載の上国労会館建設資金受領之證とあわせて提出してください。

以上

